



2024年12月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月8日

上場会社名 株式会社ソディック 上場取引所 東
 コード番号 6143 URL <https://www.sodick.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役 兼 CEO 社長執行 (氏名) 古川 健一 役員
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役 兼 CFO 常務執行役員 (氏名) 前島 裕史 TEL 045-942-3111
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：有
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年12月期第3四半期の連結業績（2024年1月1日～2024年9月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期第3四半期	51,005	2.1	838	—	1,250	258.5	402	—
2023年12月期第3四半期	49,936	△16.4	△1,405	—	348	△95.5	△889	—

(注) 包括利益 2024年12月期第3四半期 1,933百万円 (△47.9%) 2023年12月期第3四半期 3,711百万円 (△68.7%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期第3四半期	7.92	—
2023年12月期第3四半期	△17.41	—

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期第3四半期	138,326	77,630	56.1	1,526.91
2023年12月期	134,066	77,129	57.5	1,519.02

(参考) 自己資本 2024年12月期第3四半期 77,582百万円 2023年12月期 77,075百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	14.00	—	15.00	29.00
2024年12月期	—	14.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	15.00	29.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年12月期の連結業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	72,500	7.9	1,100	—	1,600	—	900	—	17.71

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年12月期3Q	54,792,239株	2023年12月期	54,792,239株
② 期末自己株式数	2024年12月期3Q	3,982,149株	2023年12月期	4,051,960株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年12月期3Q	50,775,173株	2023年12月期3Q	51,084,856株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は、業況の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。なお、予想数値に関する事項については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9
(セグメント情報等の注記)	10
(収益認識関係)	12
(重要な後発事象)	13

1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間の当社グループを取り巻く環境は、ウクライナ、中東情勢は深刻さを増し地政学的リスクが継続しますが、一昨年からの原材料・エネルギー価格等の世界的なインフレは沈静化し、9月以降米国・欧州では金融引き締め緩和へ金融政策を転換しています。一方、日本では、3月にマイナス金利解除、7月に追加利上げを実施し、金融市場正常化に向かっていきます。日本と米国・欧州間で異なる金融政策の実行局面で、期初より総じて円安基調が継続しましたが、急激な円高に振れる場面もあり為替変動リスクが増大しています。

中華圏は当社の売上の3割以上を占め、中国の工業生産動向は当社の業績に直接的な影響を及ぼしますが、当四半期連結累計期間は内需低迷の一方、EV車やIT関連製品の海外需要が支え、生産には緩やかな持ち直し傾向が見られました。この中華圏におけるEV車、スマートフォン、家電、電子部品関連等の生産需要が当社工作機械の売上増の主要因となりました。

業種別では、工作・産業機械の大口顧客である自動車産業においては、国内自動車メーカーの生産・出荷停止、日米欧中心にEV戦略見直しによる生産調整・投資計画の見直し、EV・HV・PHV等含めた製品戦略の方向性欠如による投資停滞を主因として、本格回復が遅れています。自動車産業の設備投資動向に関しては引き続き注視していきます。

一方、電子部品、スマートフォン、航空部品、光コネクタ、医療機器においては大口受注も発生し、堅調さを維持しています。生成AIの普及に伴い、プロセッサ、データセンター用光通信デバイス、光コネクタ等への需要が拡大しております。AIスマートフォン、高精度小型カメラの導入、自動車の電子化による車載用コネクタ、モーターコア等の電子部品の需要も増加しています。これらの産業の製造で要請される「ものづくりの高度化」、「高速・高精度加工」、「高精度・超精密」のニーズに応え、これらの成長領域での事業拡大に取り組んでいます。

食品機械事業においては、製麺機と米飯製造装置を中心として国内及び中華圏、アジア地域中心に展開していますが、国内の食品メーカーの更新・増設需要が継続的に発生し、中華圏、アジア地域における新規需要も引き続き拡大しています。当四半期連結会計期間においては、台湾と韓国において製麺機で大口の受注が発生しました。

当四半期連結会計期間に、リニアモーター駆動精密金属3Dプリンタ「OPM250L+ (プラス)」、ハイブリッド堅型ロータリ式射出成形機「VR_G シリーズ」の大型機種「VR200G」、リニアモーター駆動フェムト秒レーザ加工機「LSP4040」の新発売を相次いで発表しました。これらは本年11月より販売を開始します。

営業・サービス活動におきましては、9月に米国シカゴで開催された世界3大工作機械展示会の一つ「IMTS (International Manufacturing Technology Show) 2024」等の展示会に出展しました。IMTS2024では3つの産業別テーマ「金型・工具」「航空宇宙」「医療機器」に分けて、新製品のマシニングセンタと形彫り放電加工機を組み合わせた自動化ライン、細穴加工機等をメインに展示し、ソディックブランドの訴求と浸透に取り組みました。

当社グループは2024年から2026年までの「中期経営計画」において、当社の企業価値向上のためにビジネスモデルの変革が不可欠と判断し、「中国市場依存からの脱却」、収益性の改善と向上を目的とした「選択と集中」、「生産・販売体制をグローバルで再構築」、「バランスシート改善」を方針として掲げ、グループ全体での構造改革に取り組んでおります。工作機械事業においては蘇州工場の生産を厦門工場へ集約、海外工場の生産調整に伴う人員適正化、産業機械事業においては販売機種戦略の見直し、食品機械事業においては製麺機・米飯装置以外の分野に向けた新製品の開発強化等の取り組みの開始に加え、経費削減の徹底や遊休資産の売却等の対応を進め、引き続き収益改善に取り組んでおります。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間の経営成績は、売上高510億5百万円（前年同四半期比2.1%増）、営業利益8億38百万円（前年同四半期は営業損失14億5百万円）、経常利益12億50百万円（前年同四半期比258.5%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益4億2百万円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失8億89百万円）となりました。

セグメントの経営成績は以下のとおりであります。

工作機械事業	売上高	37,209百万円	(前年同期比 5.5%増)
	営業利益	2,174百万円	(前年同期比 766百万円増)
<p>当社の工作機械事業は、機械販売約3/4、ストックビジネス（保守サービス、消耗品販売）約1/4で構成されます。</p> <p>機械販売は、販売台数の半分以上を占める中華圏において前四半期連結会計期間の需要回復が当四半期連結会計期間は弱まりつつも継続し前年同期比16%増の販売台数での推移が全体を牽引し、販売台数、売上高ともに前年同期比で増加しました。中華圏においては、勢いが弱まるも当四半期連結会計期間の機械販売台数は300台超を維持。堅調であったEV車関連が不調に転じる一方、補助金政策も寄与し、スマートフォン、家電、電子部品関連は堅調さを維持しました。</p> <p>日本においては、電子部品、航空部品で堅調に推移し、9月は補助金政策の影響で電子部品、航空部品、光コネクタで大型受注もありましたが、自動車、半導体での投資停滞基調が長引く影響が大きく、前年同期比34%減の販売台数で推移しています。</p> <p>アジア地域は、前年同期比微減で推移していますが、全体的に復調傾向にあり、当四半期連結累計期間は韓国で半導体装置部品、自動車用金型、航空部品等で大幅な受注増があり、更にインドでは2輪、4輪関連で好調を維持しています。</p> <p>北米では航空宇宙、電子部品、医療機器は堅調でしたが、EV車投資計画の見直し、高金利下での買い控え等で自動車は本格回復に至っておらず、前年同期比微増の販売台数で推移しています。欧州も航空部品、医療機器は堅調に推移していますが、中国製EV車の欧州進出により欧州メーカーのEV車生産調整が長期化している影響等が響き前年同期比18%減の販売台数で推移しています。</p> <p>ストックビジネスは、日本、北米中心に展開が進んでおりますが、その他の地域においてもおおよそ計画を達成しており、堅調に推移しています。今後更にストックビジネス比率を高め、事業の安定化を図っていきます。</p> <p>以上の状況により販売台数は前年同期比微増ですが、海外売上分の円安効果も寄与し、売上高は前年同期比5.5%増となりました。</p> <p>セグメント利益は、生産構造改革として掲げた中国の蘇州工場から廈門工場への生産集約、人員配置の適正化が進展し、工場稼働率が上がることで売上原価低減も進み、21億74百万円となりました。</p>			
産業機械事業	売上高	6,395百万円	(前年同期比 0.4%増)
	営業利益	498百万円	(前年同期比 756百万円増)
<p>日本においてスマートフォンやデータセンター向けの電子部品の需要が回復傾向ではあるものの、自動車向けは国内自動車メーカーの生産・出荷停止、EV車の生産調整・投資計画の見直しにより低調に推移しました。</p> <p>中華圏においては、スマートフォン向けのコネクタやデータセンター向けの光通信コネクタは好調であったものの自動車関連は低調に推移しました。</p> <p>北米では、データセンター向けの光通信コネクタの需要がみられました。アジア地域は、タイにおいて自動車関連が低調でしたが、韓国においてはモバイル向けのコネクタが好調に推移しました。以上の結果、売上高は前年同期比でほぼ横ばいとなりました。</p> <p>セグメント利益は、構造改革による収益性の高いモデルの販売ヘシフトしたことや工場稼働率の向上により、前年同期比で増加となりました。</p>			
食品機械事業	売上高	3,529百万円	(前年同期比 22.8%減)
	営業利益	328百万円	(前年同期比 55百万円増)
<p>国内外における製麺機関連設備や無菌包装米飯製造装置等の需要は堅調に推移しておりますが、当初計画のとおり年度末にかけて案件が集中しているため、売上高は前年同期比で減少しました。セグメント利益は、当四半期連結会計期間における売上増加に伴い収益性改善が進み前年同期比で増加しました。</p> <p>日本市場の市況としては、米飯・製麺設備の更新需要が継続しており、特に米飯装置においては、災害備蓄、米不足、値上げ等の影響もあり、需要が大きく伸びています。</p> <p>海外市場の市況としては、中長期的に中華圏、韓国、東南アジアを中心とした食の高品質化やインフラの整備等で生麺、冷凍麺や米飯の需要が見込まれます。</p> <p>このような市況の中で、日本・中華圏での米飯装置、台湾・韓国で冷凍麺設備を受注するなど、今後も堅調な需要が見込まれます。これまで納品実績のある米飯・製麺設備はもとより、今後、惣菜をはじめとした別分野への事業拡大も図ってまいります。</p>			

その他	売上高	3,870百万円	(前年同期比 4.4%増)
	営業利益	△194百万円	(前年同期比 383百万円増)
<p>精密コネクタなどの受託生産を行う金型成形事業とリニアモータやセラミックス製品、LED照明等の販売を行う要素技術事業から構成されております。</p> <p>本セグメントにおいて金型成形事業が6割程度を占めますが、大口顧客の自動車業界において国内自動車メーカーの認証不正問題による数カ月間に及ぶ生産停止により、金型受注が大幅減となりました。要素技術事業のセラミックス製品においては、半導体業界は回復傾向であるものの、設備投資需要は力強さに欠ける状況が継続しました。LED照明等においては、エネルギー価格高騰や環境問題への意識向上によりLEDの交換需要が高まりを見せております。当四半期連結会計期間においては工期後ろ倒しにより売上には至りませんでした。今後、大型スタジアム向けの照明設備受注など大口案件を複数見込んでおります。</p> <p>以上の結果、売上高は前年同期比で微増となり、セグメント利益は、金型成形事業及び要素技術事業の売上高が低調であったものの、経費削減等の効果により、前年同期比で営業損失は縮小しております。</p>			

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末と比較して、42億60百万円増加し、1,383億26百万円となりました。主な増加要因としては、現金及び預金の増加94億4百万円、投資その他の資産のその他の増加14億20百万円などがあげられますが、長期預金の減少45億83百万円、減価償却累計額の増加21億84百万円などにより一部相殺されております。

また、負債は前連結会計年度末と比較して、37億58百万円増加し、606億95百万円となりました。主な増加要因としては、契約負債の増加19億66百万円、短期借入金の増加12億円、長期借入金の増加10億43百万円などがあげられますが、その他流動負債の減少9億48百万円などにより一部相殺されております。

純資産は前連結会計年度末と比較して、5億1百万円増加し、776億30百万円となりました。主な増加要因としては、為替換算調整勘定の増加13億33百万円、その他有価証券評価差額金の増加2億4百万円などがあげられますが、利益剰余金の減少10億81百万円などにより一部相殺されております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2024年8月8日に公表いたしました業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	34,621	44,025
受取手形、売掛金及び契約資産	14,692	13,397
電子記録債権	1,312	1,668
商品及び製品	11,529	11,886
仕掛品	9,444	10,042
原材料及び貯蔵品	11,423	10,691
その他	3,632	3,395
貸倒引当金	△485	△338
流動資産合計	86,170	94,770
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	35,111	35,754
機械装置及び運搬具	24,840	25,257
その他	16,932	17,178
減価償却累計額	△43,939	△46,124
有形固定資産合計	32,944	32,066
無形固定資産		
のれん	799	707
その他	1,855	1,631
無形固定資産合計	2,654	2,339
投資その他の資産		
長期預金	4,583	—
その他	7,756	9,177
貸倒引当金	△43	△27
投資その他の資産合計	12,296	9,149
固定資産合計	47,895	43,555
資産合計	134,066	138,326

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年12月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,185	4,420
電子記録債務	4,964	5,254
短期借入金	3,045	4,245
1年内償還予定の社債	140	140
1年内返済予定の長期借入金	8,649	8,776
未払法人税等	364	318
契約負債	3,296	5,262
引当金	1,387	1,056
その他	4,775	3,827
流動負債合計	30,808	33,301
固定負債		
社債	300	230
長期借入金	23,829	24,873
引当金	85	91
退職給付に係る負債	613	692
資産除去債務	67	68
その他	1,233	1,438
固定負債合計	26,128	27,394
負債合計	56,936	60,695
純資産の部		
株主資本		
資本金	24,618	24,618
資本剰余金	9,717	9,717
利益剰余金	32,257	31,175
自己株式	△3,010	△2,958
株主資本合計	63,583	62,554
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,397	1,601
為替換算調整勘定	12,125	13,458
退職給付に係る調整累計額	△30	△32
その他の包括利益累計額合計	13,491	15,028
非支配株主持分	53	48
純資産合計	77,129	77,630
負債純資産合計	134,066	138,326

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
売上高	49,936	51,005
売上原価	35,301	34,398
売上総利益	14,634	16,607
販売費及び一般管理費		
人件費	7,291	7,076
貸倒引当金繰入額	69	△158
その他	8,678	8,850
販売費及び一般管理費合計	16,039	15,768
営業利益又は営業損失 (△)	△1,405	838
営業外収益		
受取利息	351	392
受取配当金	98	227
為替差益	1,287	17
持分法による投資利益	114	88
助成金収入	57	103
その他	166	222
営業外収益合計	2,076	1,050
営業外費用		
支払利息	228	298
シンジケートローン手数料	—	190
その他	94	149
営業外費用合計	322	638
経常利益	348	1,250
特別利益		
固定資産売却益	26	40
補助金収入	—	28
移転補償金	—	903
その他	—	0
特別利益合計	26	973
特別損失		
固定資産売却損	7	—
固定資産除却損	46	100
事業構造改善費用	—	949
その他	12	73
特別損失合計	65	1,123
税金等調整前四半期純利益	309	1,100
法人税、住民税及び事業税	928	792
法人税等調整額	278	△87
法人税等合計	1,206	705
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	△897	395
非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	△7	△6
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失 (△)	△889	402

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△897	395
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	500	204
為替換算調整勘定	3,991	1,333
退職給付に係る調整額	6	△1
持分法適用会社に対する持分相当額	110	1
その他の包括利益合計	4,608	1,538
四半期包括利益	3,711	1,933
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,715	1,938
非支配株主に係る四半期包括利益	△3	△5

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2024年4月19日開催の取締役会決議に基づき、2024年5月17日付で譲渡制限付株式報酬として自己株式72,600株の処分を行いました。

利益剰余金減少額	0百万円
自己株式の減少額	53百万円

この結果、当第3四半期連結会計期間末において利益剰余金が31,175百万円、自己株式が2,958百万円となっております。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間において、当社の連結子会社である沙迪克(厦門)有限公司を存続会社、蘇比克(厦門)磁性材料有限公司を消滅会社とする吸収合併を行うことを決議し、2024年5月1日付で吸収合併いたしました。

これに伴い当第3四半期連結累計期間より、蘇比克(厦門)磁性材料有限公司を連結の範囲から除外しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)
減価償却費	2,783百万円	2,676百万円
のれんの償却額	114	93

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2023年1月1日至2023年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	工作機械	産業機械	食品機械	報告 セグメント 計				
売上高								
外部顧客への売上高	35,285	6,367	4,573	46,226	3,709	49,936	—	49,936
セグメント間の内部 売上高又は振替高	39	4	—	44	979	1,023	△1,023	—
計	35,324	6,372	4,573	46,270	4,689	50,960	△1,023	49,936
セグメント利益又は 損失(△)	1,408	△257	273	1,423	△577	846	△2,251	△1,405

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、精密金型・精密成形事業、要素技術事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△2,251百万円には、セグメント間取引消去286百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,537百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社機能に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項
該当事項はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自2024年1月1日至2024年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	工作機械	産業機械	食品機械	報告 セグメント 計				
売上高								
外部顧客への売上高	37,209	6,395	3,529	47,134	3,870	51,005	—	51,005
セグメント間の内部 売上高又は振替高	88	51	—	140	1,301	1,441	△1,441	—
計	37,298	6,446	3,529	47,274	5,172	52,447	△1,441	51,005
セグメント利益又は 損失(△)	2,174	498	328	3,001	△194	2,807	△1,968	838

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、精密金型・精密成形事業、要素技術事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△1,968百万円には、セグメント間取引消去△5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,963百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない本社機能に係る費用であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益又は営業損失(△)と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

該当事項はありません。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第3四半期連結累計期間(自 2023年1月1日 至 2023年9月30日)

1. 財又はサービスの種類別の内訳

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	工作機械	産業機械	食品機械		
製品販売	26,079	5,280	3,878	3,709	38,947
保守サービス・ 消耗品	9,206	1,087	695	—	10,988
合計	35,285	6,367	4,573	3,709	49,936

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、精密金型・精密成形事業、要素技術事業等を含んでおります。

2. グループ間の内部取引控除後の金額を表示しております。

2. 地域別の内訳

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 2	合計
	工作機械	産業機械	食品機械		
日本	7,561	3,039	2,228	3,620	16,449
北・南米	6,299	502	33	—	6,835
欧州	5,033	24	—	—	5,058
中華圏	11,763	1,998	1,999	88	15,850
その他アジア	4,626	803	312	—	5,742
合計	35,285	6,367	4,573	3,709	49,936

(注) 1. 国または地域別の収益は顧客の所在地に基づき、分解しております。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、精密金型・精密成形事業、要素技術事業等を含んでおります。

3. グループ間の内部取引控除後の金額を表示しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2024年1月1日 至 2024年9月30日)

1. 財又はサービスの種類別の内訳

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計
	工作機械	産業機械	食品機械		
製品販売	27,463	5,195	2,723	3,870	39,254
保守サービス・ 消耗品	9,745	1,199	805	—	11,751
合計	37,209	6,395	3,529	3,870	51,005

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、精密金型・精密成形事業、要素技術事業等を含んでおります。

2. グループ間の内部取引控除後の金額を表示しております。

2. 地域別の内訳

(単位: 百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 2	合計
	工作機械	産業機械	食品機械		
日本	6,804	2,615	2,181	3,721	15,323
北・南米	7,506	905	27	—	8,438
欧州	4,885	177	—	—	5,063
中華圏	13,403	1,847	215	149	15,615
その他アジア	4,608	850	1,105	—	6,564
合計	37,209	6,395	3,529	3,870	51,005

(注) 1. 国または地域別の収益は顧客の所在地に基づき、分解しております。

2. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、精密金型・精密成形事業、要素技術事業等を含んでおります。

3. グループ間の内部取引控除後の金額を表示しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。